

第1回 性差科学研究会

と き : 2008年1月14日(月・祝日) 13:30 ~ 16:00

と ころ : 京都大学女性研究者支援センター一会議室

講 演 : 松下 佳代氏 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

OECDのPISA調査結果 にみられる性差

生徒の学力に関する国際比較調査では、必ず性差の分析が行われています。今回の報告では、いま最も注目されている OECD の PISA(Programme for International Student Assessment) の調査結果をご紹介します。この調査は、15 歳児 (義務教育終了段階) を対象としており、調査対象は、読解・数学・科学の3領域です。このほか、教科の好き嫌いや有用性の認識、学習方略なども調査しています。調査は、2000年、2003年、2006年と実施され、その結果は、日本の教育政策の方針転換 (ゆとり教育から学力向上へ) にも大きな影響を与えました。領域や国・地域によって、性差の現れ方どのような違いがみられるのか、それはどのような理由によると考えられるのか、を中心にお話する予定です。国・地域によって性差の現れ方に違いがあるということ自体が、性差が社会的・文化的に形成されることの一つの証左であると考えます。

お知らせ : 連続研究会を開催します

性差の問題を語る時、いろいろな配慮から、最新の科学的事実を目をそむけ、部分的事実だけを誇張する傾向がしばしばみられます。1976年にパリで開催されたシンポジウムの記録「女性とは何か?」が発刊されていらい、性差についての科学的知見もかなり進化しました。今後研究会を何回か開催して最前線を極め、ジェンダー科学の到達点を踏まえた、政策的・制度的政策提言を報告書にまとめるまで到達することを目標にしています。今後の予定ですが、まず科学的事実を目をむけてみようと考えます。脳の性差 (功刀由起子) をはじめとして、生理学関連、人類学・サル学関係、性差医学・性差医療関係、科学史的観点からみた性差、などさまざまな方向から問題を取り上げるつもりです。興味をお持ちの方、ご遠慮なくおいでくださり議論に参加下さい。じっくりと話し合っ議論を深めるための研究会です。

主催 : 京都大学女性研究者支援センター

愛知大学研究助成班「リーダーシップ研究会」、女性研究者の会・京都 共催